SSKS
療育ねっとわーく川崎

2017年2月20日発行
No.195（2800部）
NPO法人
療育ねっとわーく川崎
発行者　江川　文誠
編集者　谷　みどり

Q　やまゆり園事件はその後どうなっていますか。気になっているのですが。

やまゆり園には川崎市に在住されていた方も入所されていました。中には知的障害の方だけでなく重度の重複障害の方もおられたようです。テレビではあまり報道されていませんが、インターネットで情報を得ることができます。わかる範囲でお伝えします。

○やまゆり園の施設入所者の家族は

1月22日、このニュースでも紹介した「よこはま福祉実践研究会」主催の講演会が港南台日野支援学校で開かれ300人が参加しました。入所者の家族会の大月会長が、事件後初めて公の場で報告をされました。当日、事件を家族から知らされ駆けつけられた時の衝撃も話されました。

施設の建て替えについては、「黒岩知事から打診され、現地での建て替えしかないと思い、家族に意向調査をされ、建て替えの要望書を県に提出。建て替えを決めた県の方針に、公聴会での異論が出ていることは承知しているが、親の会としては、この先何年も利用できるいいものを残したい気持ちがある。」施設建て替えまでの間は、旧ひばりが丘学園に、移動されるということでした。大月会長の講演詳細は、参考福祉新聞WEB　17年2月3日 http://www.fukushishimbun.co.jp/topics/15373　で見られます。

○事件の検証はされているのですか

9月から、有識者5名になる事件の検証委員会が開かれ、「津久井やまゆり園事件検証報告書」として11月23日付で発表されています。委員の方からもいろいろ制約のある中での検討で十分なものではないということですが、事件の概要はわかります。植松容疑者の言動から、防犯体制を強化したにもかかわらず、有効な対応になっていなかったこともわかります。報告書は、神奈川県のホームページからみることができます。

○施設の人たちは今どうしているのでしょう

半年たった現在の状況について、2月3日、神奈川共同会代表とやまゆり園園長でおこなわれた記者会見が神奈川新聞の「ウェブページカナコロ」に、詳細に載っています。

県の検証報告と改善勧告を受け、12月26日には、改善計画がつくられました。

当日、誰が亡くなったかもわからず体育館に避難し、混乱の中で過ごされた方たちも、ようやく落ち着きが戻って来られたそうです。血が点々と残る惨状の中、少ない夜勤者で対応されてこられた職員も含め、一人の退職者もなく、今も支援を続けられているということです。-（谷）

今月号の目次

こんなときどうするの……1
当事者が語る・差別解消法こうあれば……2
川崎市の障害者差別解消法に対するとりくみ……3
療ねひろば……5
てんかん発作の歌……7
明日香のたまてばこ……8

（本誌5・6・7・8面は会員のみに郵送）

一般社団法人　川崎市自閉症協会　講演会

自閉症スペクトラム　成人期から老年期の支援

発達障害者支援法が成立した平成１６年１２月から、世間的に少しずつ発達障害を知っていただく機会も増えてきています。自閉症スペクトラムの方々の支援も普及啓発の活動を通し対応が良くなってきていると感じます。
今回は、医学的に成人期から老年期にかけての支援はどういう支援が良いのか、お話しが聞けることと思います。

講師：内山　登紀夫氏

日時：　平成29年3月5日（日）13時30分～15時30分（受付13時～）
場所：　川崎市総合自治会館　　ホール　（1階）
　　川崎市中原区小杉町3－1　　044－733－1232
　　JR南武線（西口）・東急東横線・目黒線　武蔵小杉駅（南口）徒歩7分
定員：　180名（先着順）
参加費：資料代　1,000円　（会員無料）

第12回島田セミナー「小児在宅医療とその周辺」

日時：2017年3月11日土　午後1時30分～午後5時30分
場所：島田療育センター（多摩）厚生棟1Ｆ講堂（裏面アクセス参照）
対象　会費　療育・医療・リハビリ関係従事者などで、興味を持っている方々.（内容は若手医師向けとしていますが，職種は問いません）
医師・歯科医師1,000円　Co‐medical 500円　学生・家族等無料
講演後希望者に対して島田療育センター（多摩）の見学会をおこないます
下記のどちらかの方法でお申し込みください.　先着150名
＊ＨＰ参加フォーム：当センターＨＰよりお申し込みください
島田療育センター http://www.shimada-ryoiku.or.jp/
〈内容〉
講演1 森下 倫朗　先生（認定NPO法人フローレンス障害児保育事業部 マネージャー）
遠藤　愛　先生（障害児保育事業部 障害児保育園ヘレン荻窪 園長）
講演2 大瀧　潮（医師：島田療育センター　医務部小児科長）
講演3 竹中佐江子　先生（作業療法士：東京リハビリテーションサービス取締役）
講演4 髙橋 昭彦　先生（医師：ひばりクリニック　院長）医療的ケア児と重症心身障害児を保育する『障害児保育園ヘレン』の歩みとこれから（仮）

発行所　郵便番号一五七―〇〇七三　世田谷区砧六―二六―二一
特定非営利活動法人　障害者団体定期刊行物協会　定価一〇〇円

会員・賛助会員募集

（連絡先）〒214-0014　川崎市多摩区登戸２９８１　サポートセンターロンド
℡０４４－９３０－０１６０　Fax０４４―９３０－０１２８　e-mail: tani@rond.jp　http://rond2981.jimdo.com/
《会費振込先》郵便振込　00280-2-26842　特定非営利活動法人療育ねっとわーく川崎
■会費・賛助会費の別をお書きください。振込用紙が必要な方はお知らせ下さい。年会費2500円　賛助会費一口2000円

当事者が語る・差別解消法こうあれば
障がい者差別解消法って・・・

前田龍希：両側感音性難聴による聴覚障害　知的障害

生まれた時の体重　８２０ｇ

↓極小未熟児センターのある昭和大学病院に即・転院、心不全やらいろいろな病気があり９カ月保育器の中で過ごしました。

障がいをあまり理解しない人たちの中には、障がい者を【残念な人】【可哀そうな人】と呼ぶ人がいます。

川崎市立ろう学校の幼稚部に入ると・・・当然、校長をはじめ入園許可があるにもかかわらず「ここはあなたの様なろう重複児童が来る場所じゃないの！」と、当時の川崎ろう独特の手話偏重な教師たちの差別的な一言が毎日のように繰り返されます。

・・・さて【残念な人】はどっち？

小学部も高学年になると、「誰かをいじめないと自分がいじめられる!!」といった【残念な年齢】に、ろう学校の児童・生徒達も差し掛かります。

身体が小さく知的障害のある龍希は恰好の餌食です。

ただイライラ怒る父に対し、龍希母は、【龍希が生まれた時の大きさの人形をお米やら粘土で作り、服を着せ

「龍希はこんなに小さな赤ちゃんで生まれたの・・・だから身体もなかなか大きくならないし、皆より遅れていて、出来ない事もいっぱいあるの！」

と同級生に話しました。

そこで一同、龍希の事を理解し・・・卒業まで【かけがえのない仲間】になりました。

休日はプールに行くことが多いです。

川崎・横浜・横須賀・秦野・相模原・南足柄・都内も目黒・多摩・稲城・・・いろいろな所に行きますが、「変な人がいる！」とか、ぶしつけに「何の病気なんですか？（多分、てんかんという病気と知的障害を混同してる？）」とか、嫌な思いをするのは大体川崎市内のプールです。

なんでだろう？　他の所は障がい者とサポーターが普通に利用して皆が溶け込んでいます。

障がい者差別解消法って、障がい者を理解しないまま「差別はやめましょう！」って言っているような気がします。誰でも自分にとって未知の相手に対し【身構え】、場合によっては事故優位性を保ちたいがために【徒党を組んで相手を差別したり攻撃したり】しがちですよね。

・・・さて【残念な人】【可哀そうな人】はどっち？

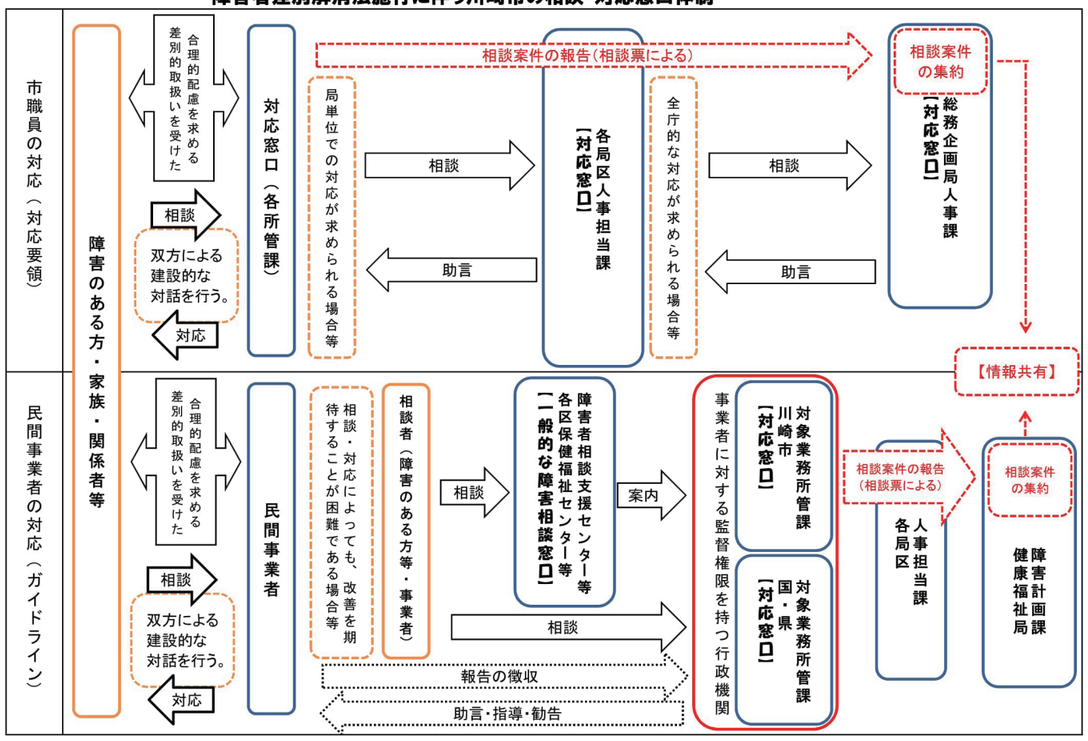
相手を理解し始めると　こんな事はありませんよね。むしろ距離が縮まって仲がよくなったり！

【障がい者差別解消法】より、まず、【障がい者理解促進法】・・・そんなスタンスが一番大切だと思うのは私だけでしょうか？

1995年8月10日第三種郵便物認可（毎週1回水曜日発行　2017年2月24日発行　増刊通巻第6991号）

川崎市の障害者差別解消法に対するとりくみ

障害者差別解消法施行に伴う川崎市の相談・対応窓口体制



上の図が、川崎市が行っているという「障害者差別解消法施行にともなう川崎市の相談・対応窓口体制」だそうです。対応窓口が市の各所管課と民間事業者です。役所の窓口へ差別解消法のことで相談に行っても、役所の人に窓口だという認識はないでしょう。ましてや当事者にすら理解が行き渡っていない差別解消法を、いきなり民間事業者が窓口になっているというのが、川崎市の体制だということです。こんな体制ですから今年度の庁内にあげられた相談件数は７件だそうで。（この内の３件は市営バス問題、その他１件もＧＤＰかわさきからのもので、半数以上がＧＤＰかわさきです）。一年で７件という数字をどう捉えているか、平成28年度の差別解消法に関する予算をみてもわかります（総額31万７千円、内委員への謝礼等が12万２千円、周知用印刷物等が19万５千円）。本気で普及・啓発をしようなどとは、思っていないのです。川崎市民として恥ずかしい限りですが、このまま放っておいてはいけないと思います。